

印西大師 第44番 笠神・南陽院

1 名称 (No.044)〔手引鏡：南陽院〕〔資料館：南陽院〕〔行程表：南陽院〕

2 場所 印西市笠神726 南陽院

笠神・みみ堂から道程約450m

GPS座標 35.81928719029919, 140.2074706054955

3 由緒 天台宗 慈眼山 勝軍寺 南陽院

大字笠神字船戸にあり 慈眼山勝軍寺南陽院と号す 天台宗比叡山派にして中本寺泉倉寺末なり 阿弥陀如来を本尊とす 勧請は元禄十五年(1702年)此地を卜し新に伽藍を創立す(此以前は今の慈眼坊俗に原堂と云う處にありしものなり) 開基を大阿闍梨堅者法印舜覚師にして配下に金剛院、正善院、戒行寺、龍泉院、慈眼坊、新齊坊、地藏坊、大日坊、観音坊、新御坊、不動庵、薬師庵、大日庵等の諸坊を有し一時隆盛を極めたりしか その後安永元年(1772年)大災のため堂宇悉皆烏有に歸し三十有余年の間仮堂にて再建に至らざりしか 文政元年(1818年)に至り大阿闍梨堅者法印亮淳(後下植生軍龍角寺へ転職)此霊場の廢絶を憂へ茲に大勧請を企画し同三年十月漸くにして諸堂共竣功せり

(本塾村誌)

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。

5 境内 大きな大師堂で、まわりには四国霊場勧請記念碑や三義侠者之碑などたくさんの石造物があり、本堂、三十三観音堂、元三大師堂などがあります。

6 写真 (2021.09、2023.04撮影)



大師堂



御大師様



大師堂



山門と本堂



四国霊場勧請記念碑(昭和10年建立)



藤

7 情報

(1) 印西大師 第44番 南陽院 御詠歌 (泉倉寺本による)

今の世は大悲の恵み菅生山 終(つい)には弥陀の誓いをぞまつ

四国八十八ヶ所 第44番 真言宗豊山派 菅生山(すごうざん) 大覚院 大寶寺(だいほうじ) 写し

(2) 南陽院 (印旛郡誌)

笠神村字船戸にあり 天台宗比叡山派にして中本寺泉倉寺末なり 阿彌陀如来を本尊とす 勸請年月不詳 檀徒八百五十人 境内佛堂二字あり即

一、大師堂 元三大師を本尊とす由緒不詳

二、観音堂 三十三観音を本尊とす由緒不詳 (印旛郡誌)

(3) 新四国霊場勸請記念碑 (印西市石造物調査報告書より)

新四国霊場 勸請記念碑

東都金光山主僧正遠賀亮中篆額

印西新四国霊場享保六年笠神邨天台宗南陽院臨唱法印所勸請也柳印西之地蟠刀川旛湖間古来水旱両禍數到庶民不能安堵法印夙憫之發救禍之念祈佛天冥護一夜觀靈夢於是乎踊躍而單身飛錫千四国地親訪弘法大師遺跡乎收取其靈砂歸山後謁泉倉寺演順貫主詳陳其宿志貫主諭曰弘法大師言家祖也復興言家浄侶協力師之圖之平賀邨来福寺頼如師戸邨廣福寺宥傳兩師兩師齊語靈夢示現悦其值遇心融身會誓共同荷負法印以為世尊託生在中天竺是則尚中謂也宗祖所立中道實相妙旨亦在此移一國一場為根幹以象四方鎮護故配第一番于泉倉寺為究竟首位敬本寺意也而置遍路首于三箇寺擬空假中三諦靈場頒布各取其中以全霊場中位四十四番配自坊自其四十四番至八十八番以中位六十六番配来福寺更自六十六番倒算至第一番以中位三十三番配廣福寺互貫聯如鎖示三寺一體不可離之意法印用意可見其甚深也爾餘霊場概依地名景域相似佛名寺號相等勸請滿了傳聞最初遍路自第一番順次納札復始而營結願是則印西大師巡行矯矢也爾来幾變遷文化午戌之交浄域有火衆庶奉佛念漸衰我大師巡行徒亦絶其跡法孫孝祐痛惜先師遺業殞滅再興發願誘導信徒令各唱詠歌和讚遍路祈誓數年信徒益多于茲始建立八十八軀石像得拜發願成就曙光于時文政十三庚寅中冬也令茲昭和乙亥四方信徒舉將傳其功績於不朽建豐碑于慈眼山頭録其事績為記念云爾

昭和十年十一月

北総處士 岡田静雄撰文并書

南陽院主 杉本亮舜代 建之

大塚兼吉刻

笠神 南陽院 平賀 来福寺 師戸 廣福寺

印西組信徒中



新四国霊場 勸請記念碑